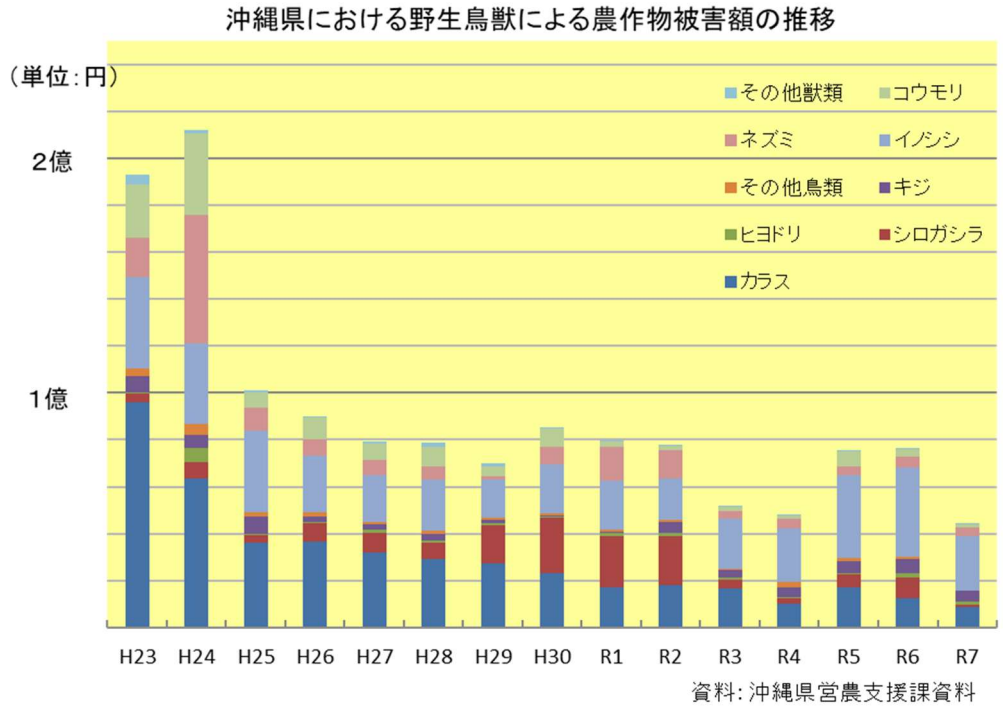
沖縄県における鳥獣による農作物の被害状況について

有害鳥獣による本県の農業への被害額は近年減少傾向にあるものの、令和７年度は約４，４１５万円となっており、依然として被害は大きく、営農意欲の低下を招く要因にもなっている。鳥獣種別ではイノシシによる被害が最も大きく全体の 52.2%を占め、次にハシブトガラスが 19.3%、キジが 10.5%となっている。地域別では本島北部が全体の 50.7%、八重山地区が 21.4%を占めている。作物別では果樹類（うちパインアップル(64.6%)、カンキツ類(28.1%)、その他(7.3%)）、野菜類(15.2%)の被害が全体の約 61.9%を占めている。

鳥獣被害対策として、市町村協議会等が主体となり、有害鳥獣捕獲活動や被害状況及び生息状況の調査を実施し、効果的な被害防止対策の普及や、イノシシの侵入防止柵の整備等を行っている。





タンカンの被害



イノシシ侵入防止柵